

山岳クラブ／ゲーテントーク(ドイツ語 こんにちは)

月報 やまふみ



笠が岳

No.186 2011年 1月16日発行 山踏み

会 長 / TM
事務局長 / KT
振込口座 / 山岳クラブ ゲーテントーク

ホームページ / <http://www.avis.ne.jp/~gutentag/>

編 集 / TS MS ST

印 刷 /

目 次

年頭挨拶	1
新年の抱負	2~4
山行報告	4~9
山行計画	10~11
お知らせ(長山協から)	11~13
来月担当者&編集後記	13



年頭あいさつ

会長 TM

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様方においては、昨年中は四季を通して活発な山行を重ねられ、ご活躍されたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年は年初から珍しく雪の多い年となり、春の訪れは早かったものの積雪期の登山やスキーを、また記録的な猛暑に(昨年を現す漢字が「暑」というのも頷ける。)沢登りも十分に楽しめたのではないのでしょうか。その後の順調な秋の訪れに、私もキノコ採りを満喫させていただきました。今シーズンの雪山も、クリスマスになってようやくの寒波襲来にほっと胸をなでおろしている方も多いことでしょう。

昨年のニュースを眺めても、暑い夏・異常気象はやはり上位に上げられるでしょうし、その他、尖閣諸島問題やメキシコ湾原油流出事故、宮崎県の口蹄疫など暗いニュースの多い中でも、チリ落盤事故全員救出や小惑星探査機「はやぶさ」帰還など明るいニュースもありました。サッカーWカップでの日本チームの健闘などもそうでしょう。

さて、山岳界にあっては、長野県内の昨年の遭難者数は昭和29年の統計開始以来、過去最多の226人(12月中旬現在)に上ったそうです。そのうちの八割が40歳以上のいわゆる中高年で占められました。実際、山で出会う人の大半が中高年なんですから、そういう数字が出てもおかしくはありませんし、私が行

く山では山ガールにも出会いません。(求む！山ガール)幸いにして、昨年の当会では遭難事故の発生はありませんでしたが、本年も引き続き事故のない、安全で明るく楽しい山岳会グーテンタークであり続けることを願っています。

また、当会の所属する長野県山岳協会では、今年創立 50 周年を迎え、様々な行事が計画されています。中国西藏へのトレッキングや国内では長野県内の 50 山同時登山などが計画されており、当会でも主に東北信支部の活動を通じて出来る限りの協力はしたいと思っています。会員の皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。

当会もおかげさまで、50 年とは行きませんが、創立から 16 回目の新年を無事に迎えることが出来ました。年月が経過してもなお活発な会活動が続いているのも、会員及びリーダーの皆様の登山に対する熱意の表れであり、この場を借りて深く感謝申し上げます。今年も講習会や勉強会を数多く行い、会員相互の親睦を深め、『明るく楽しい』、そして『安全・安心な登山』を合言葉に、会員の皆さんがより飛躍できる一年でありたいと思います。

皆様の今後のご活躍と健康を祈念して、年頭の挨拶と致します。

11月28日（日） 火打山 （例会山行）

CL M井 SLK林 T島 N島 K池 S藤 T野 計7名

笹ヶ峰 7:00 高谷池ヒュッテ 9:50~10:10 火打山頂上 12:30

高谷池ヒュッテ 14:10~14:40 笹ヶ峰 17:00

天気:雪

僕のフィットに大人5人と荷物をパンパンに積んで、長野を 5:00 に出発。妙高の温泉で松本組と合流して笹ヶ峰へ。天気を気にしながら笹ヶ峰に着くと、雪がチラチラ舞っている状態。この天気大丈夫かな…と、思いながら身支度を整え出発。僕は“がらくた市”で買った、ポリエールのG1を(約21,000円)装着。登山口から30分ぐらいは、新しく綺麗な木道が続きました。手すりのない黒沢橋を渡ったところで小休憩。前に進むにつれ、だんだんと積雪が増していきます。うっすら積もった雪ノ下はつるつるで危険な状態でした。高谷池ヒュッテに着くとホッと一安心。軒下で補給をして出発かと思いきや、K池さん天候を見てヒュッテでお留守番をすることに。そこからは6人で頂上を目指します。しばらくすると、広い雪原に出ました。夏に来れば景色の綺麗なところだろうかと、想像してしまいました。冬でも天気がよければ絶景なのだと思います。表面はパリパリで、中はフワフワの状態の雪が、膝ぐらいの高さまで積もっていて、そこをツボ足で変わりばんこで、一列に進んでいきました。頂上付近まで行くと、ものすごい風と雪が吹きつけて、前を見るのが大変でした。頂上に着いても、達成感どころか早く下りたいといった感じ。集合写真を一枚撮ろうと、携帯をポケットから出したとたん、寒さが電源ダウン。電池パックを取り出し、ふとこで暖めて再チャレンジしたら、なんとか撮れました。

高谷池ヒュッテに戻ると、3階でK池さんが布団にくるまってミノムシ状態。お湯を沸かして軽食を取りました。ラーメンが身にしみる美味さでした。その後は急いで下山。真っ暗になる前に無事、笹ヶ峰に戻りました。

この時期に本格的な冬山登山が出来て、下界との季節のギャップがまた面白かったです。今まで重登山靴を4シーズン使っていましたが、今回買った靴はフィット感、保温性、共に抜群で、良い買い物をしたなと実感しました。もう前の靴が履けません。

記 T野

12月4日(土) 鏡台山～五里ヶ峰 (個人山行)

L K池 S L K林 T塚 S木 N島

長野 D7:00=土曜日だったので国道はガラガラ、予定より早く、A7:45 坂城神社着。参拝。分乗して取り付けへ。和平公園の駐車場 D8:37(公園はシーズン外閉鎖、トイレは使用不可)。薄氷が張り大きな霜柱の立つ傍陽=松代線への農道を取付の峠へ A9:05。赤松林の急登を黒柏木山へ、一息で平坦になり、ほどなく山名標識で頂上と解る黒柏木山を通過 A9:25、うっすらと昨夜の雪で少し滑りやすい傾斜のきつい坂を、立ち木に掴りなんとか下り、見通しのきく緩やかな稜線を鐘のある草地の鏡台山(南峰)へ A10:05 ここから雪のアルプスが展望できる。刈払された道を北峰へ、戻って鏡台山で軽食。頂上での日向ぼっこに未練を残し林道坂城更埴線沢山へ下山。富士見の岩で富士山が見えるかと思ったが残念視認出来ず。沢山の峠 A11:23 ここから五里ヶ峯までは荒れた車の通れる林道を登る(但し車止め有)。五里ヶ峯 A12:11 ここで昼食。

後は下るだけ!! しかし、下り始めて気がついた、そうは問屋のこの落ち葉、スベルー。葛尾城跡 A13:24 山はカツラオヤマと読むらしいから、カツラオジョウと読むのかな。横吹山(姫城跡) A13:55。すこしヤバイ、トラバース。飯綱山=下界から見ると岩峰 A14:17。あとはダラダラ～坂城神社 A14:56 帰りの温泉は 戸倉観世温泉 料金 300円 クマさん記

12月11日(土) 雪上訓練

講師:T谷 参加者:T島、H、K林(和)、T野、K山、N島、K子

ゴンドラで辿り着いたアルプス平は一面の雪景色で、ツボ足だとヒザまで埋るほど。「滑るのには絶好だなー」という欲を抑えながら、身の回りの確認。ぶらぶらしたシュリンゲには容易に雪がまとわり付いてしまう。ホイッスルは非金属ですぐに使える場所に。エイトノットの末端処理も雪山では不要。ほぐれて雪団子が付いたり踏んづけてしまわないように。タイトコンテのロープ連結やロープ処理についても確認。



急斜面でスタッカートに切り替え、トップが雪上で支点を構築し、セカンドの

ビレー。雪の感触が心地よい。遠見尾根をケルンまで登る。冬の北アっぽい、黒く冷たい風が尾根を越えてきて、思わずワクワクしてしまうのはなぜ?

いつもの場所まで行き、急斜面の下降練習。ピックを刺し、シャフトを手でずらして足を決め、またピックを打ち込む下降法。雪崩発生時におけるチームワークについて講義。1分 1秒を争う捜索では、リーダーシップの確立と的確な指示が不可欠。これって、日頃から意識し



ていないと、いざというときには難しいな～。

2班に分かれ、雪崩の搜索訓練。ゼツタイにパニックになるので、冷静な人間がリーダーシップをとり指示。同時に2次雪崩の監視など、チームワークの確認。改めて、信頼できる仲間があってこそ雪山、バックカントリーなんだなー、って実感。



雪上における下降支点の構築。各班で実際にやってみる。枝が確保できる場合、何も無い場合(スノーボード構築)、ピッケル2本による回収可能な支点構築など。毎年やっているのに忘れるな～^^;。吹雪いている時には「スピーディな支点構築能力」は極めて重要。

それにしても、参加者が少なくて残念。充実した講習を受けられるのが山岳会のメリットのひとつ。来年は、より多くの方々の参加をお待ちしております。さあ、恒例の忘年会へ突入！！(記録:K子)

12月19日(土) 蓼科山

CL K林 T井 T塚 K山

女神茶屋 9:15 山頂 12:30 女神茶屋 15:10

いよいよ冬山デビューということで集合場所に向かう私、だが女神茶屋までの道に迷い遅刻をすることに、メンバーのみなさん申し訳ありませんでした。なんとか女神茶屋に集合するも雪がない、これじゃテントも張れないし、水も作れない、どうしようということになる。結局荷物を軽くして日帰りに計画変更。わたしに冬山泊まりデビューはお預けとなる。

登山道を歩き始めると、雪はないものの氷でつるつるとすべるため、アイゼンを履くことになる。冬山泊まりデビューはのがしたが、冬道アイゼンデビューは果たした?! アイゼンを履くと確かに氷や硬い雪の上では快適に歩ける。でも足が



少々重いし、逆に雪のついてない岩では滑りそうですこしこわい、アイゼンになれるにもトレーニングが必要だなあ、などと思いながら進んでいく。気温は低いはずの冬山だが、歩いていると暑くなって汗がでてくる、上着を脱いだりし体温調整するが、汗をまったくかかないのってなかなか難しい。その後、1時間と少しぐらいでテント場の予定だった中間台地に到着する。やはりここにも雪は少なく、笹も出ているしとてもテントを張れそうにはない。中間台地を過ぎさらに進むとやがて樹林帯を抜けることになる。すると木がなくなって風が強くなるととたんに寒く感じる、休憩なんかしたら



一気に体が冷えてしまいそうでした。寒さに耐えながら樹林帯を抜けてしばらく進むと山頂がみえてきました。この山頂も風があり非常に寒い、のんびりとはしたくないので、写真を撮ったら早々に下山しました。

計画とは違いましたが、冬山 & アイゼンデビューの山行としてはよいトレーニングになったし、結果的にわたしにはとてもよい一日でした。

カタカナ記

12月26日（日） 八ヶ岳・天狗岩（個人山行）

T塚

8:18 渋の湯～10:17 黒百合ヒュッテ～12:00 山頂～12:31 中山峠～
14:27 渋の湯

本当は25、26と黒百合平でテント張ってのんびりする予定だったが、25日の朝、上越がとてつもなく雪。除雪が悪く、朝出発をあきらめ、26日の日帰りに決める。しかし、道路の圧雪がひどく車がなかなか走らない。今回の核心は上越脱出。



渋の湯からの道は雪があるが、しっかりトレースがある。最初、すれ違う人は、あまりにも寒くて山頂には行かずに引き返してきたという人ばかり。黒百合ヒュッテ到着。中で休憩する。岩崎元郎さんがいた。実物は小柄なおじさんなんですね。ここで、アイゼンを着け、山頂に向う。山頂から下りてきた人たちは景色はなかったよと言う。視界が悪いため、トレース探



しながらになる。東天狗山頂到着。寒さでデジカメの電池作動せず。山頂直下の画像がギリでした。

寒いから、そうそうに下山。西天狗には行く気も起きません。黒百合ヒュッテで暖かいおでん食べて、渋の湯へ下山。

リベンジしなきゃです。

T塚 記

12月25日～26日（土日） 霞沢岳・西尾根（例会山行）

CL T島 S藤 T野 N島

行程

1日目: 7:30 釜トンネル 8:30 西尾根取り付き(1520m) 14:45 テント場(2050m)

2日目: 7:00 テント場出発 11:00 霞沢岳頂上(2645m) 12:50 テント場着

14:00 テント場発 16:10 横尾根取り付き到着 17:00 釜トンネル着

1日目: 当初の予定であった爺の東尾根は、藪漕ぎがどこまで続くか、2週前に行ったパーティが藪漕ぎで敗退した情報もあり、藪漕ぎでの敗退は避けたいという思いから最初から断念した。けれども冬山には入

りたい。どこか 1 泊 2 日で行ける山はないかと検索していたら、霞沢の西尾根にヒット！これが幸とでるか不幸とでるか、果たして…

天気はあまり芳しくない。けれども吹雪くほどのひどい天気でもないらしい？とにかく行ける所まで行って、駄目なら帰ってくればよい。幸いにも場所は上高地。撤退したら、上高地でキャンプだけをして冬冬のキャンプの雰囲気は味わえるという思いもあり、中止にする気は全くなし。さて、時間通り沢渡に到着する。心配していたタクシーも 1 台常備していた。タクシーで釜トンネルまで向かい、翌日の帰りのお迎えもお願いする。(ちなみにタクシー代は片道 2800 円程度) 装備なしで入山する登山者が絶えない為、釜トンネル内の灯りは消されるようになった。ヘッドライトを用意し、釜トンネル内を歩く。釜トンネルを抜けると、当然であるが雪一色。そこから 30 分弱歩くと、砂防事務所の入りに着き、西尾根に取り付け準備をする。しかし、どこも急登。どこも登りやすそうな地点はない。仕方ないから、この辺？らしき所から登るが、当然ながらラッセルである。20 分程で尾根に着き、少し傾斜も落ちたし、雪も深そうであるからワカンを着ける。しかし、登りやすかったのは本のつかの間。斜面は再び急斜面になる。しばらくすれば、傾斜は落ちるかなと思っていたが、そうでもなさそう。雪はまだ落ちていないため、笹がでてくる。ワカンでは登りにくいと判断し、アイゼンに交換する。かなり登りやすくなったが、傾斜は行けども、行けどもきつい。雪は当然標高が上がれば深くなっていく。さすがは北アルプスである。南とは比較にはならない雪の量である。膝丈のラッセルから、底なし沼のように足がズボズボと入り、雪が腰、胸までに達するラッセルには、交代で行なっていたが、本当に引き返したい気持ちになった。1800～1900m地点、2000～2050mの傾斜はかなり陰しく、この辺りでは 100m上がるのに 1 時間強かかっていたように思う。傾斜が緩くなり、西に向かっていた尾根が北に方角を変えた地点が、2050m地点のテント場となる。ようやく 15 時前に到着。

さてテント場作り。雪は軟らかく崩れること。狭いスペースであるが、なんとかテント場のスペースを確保しテントを広げる。ポールを出し、テント内に挿入しようとした瞬間！事件が…2 本あったポールの一つが、目の前をすり抜け、先ほど登ってきた尾根へと、滑り落ちていく。あまりの一瞬のことで、体を動かすこともできず、目の前で起きている出来事を冷静に把握することに一瞬の間が必要であった。把握した瞬間、追いかけた。けれども追いつくわけがない。スコップを持って、考えられる場所を掘ったが見つからない。もう 4 時を過ぎてきて寒くなってきた。1 本なくなったポールの代用方法を考える方が重要と選択し、思考錯誤。多少歪んではいるが、なんとか入れるようになった。テントに入ったのが 16:30。テント場に到着してから約 2 時間がかかった。

さあテントに入って、落ち着いてお茶でも飲みたいとバーナー、ガスを出す。そこでまた重要な失態に気がつく！共同装備のコッヘルがない。担当は私…今の今まですっかり忘れていた。お茶どころか、ご飯どうする?? 少し大きめのコッヘルを持ってきていた T 野君と N 島さんのコッヘルで、何回かに分けて作る事になった。本当に申し訳ない限り。

必要以上に時間のかかった幕営、食事、水作りがようやく終えて、就寝できたのが 9 時を既に回っていた。外はホワイトクリスマスではなく、ホワイトアウトクリスマスとなってはいるが、この程度の雪なら行けるところまで行くつもりでシュラフに入った。

2 日目：予定より 1 時間程遅れ、11 時までをタイムリミットして、行ける所まで行って折り返してくることを決めて出発となる。今日も当然ラッセル。所々胸丈のラッセルが混ざるが、大部分が膝丈程度のラッセルであり、まずまずのスピードで標高を稼ぐ。2500mの雪稜に 9 時半過ぎに到着。直登するか迷ったが、安全を期してルンゼをトラバ



ースし、左から巻いて雪稜にでる。この雪稜をトラバースするのも、ザイル出さずか迷った。初めての冬山



経験者もいたので、一応 FIX ロープを張ることにする。実際は思っていたより危険性もなく、皆さん確実にステップを踏めていたので、帰りにはザイルは出さなかったが、ルンゼのトラバースで念の為にだした。この雪稜を終えると急斜面は終わり、緩やかな広尾根となり、30分弱歩いて予定内の時間に霞沢の頂上に到着した。頂上は風が強く、あまりにも寒い。記念写真だけ撮って、とっとと帰路につく。帰りは2時間弱でテント場に到着、テントを撤収する。途中尾根を間違えそうにもなったが、何とか2時間程度で取り付きに到着し、明るい内に降りられた。そこで約束していた

タクシーに電話し、ほとんど飲まず食わずの下山であったので、軽く休憩をとる。釜トンネルに着いた時にはまだ外は明るかったが、トンネルを抜けて入り口に到着した時には外は既に日が沈んでいた。待っていたタクシーに乗り、沢渡に到着し、今回の山行を終了した。

天気には恵まれなかったけど、何とかメンバーに恵まれたおかげで、登頂することができた。私は、身内から今回の山行に新人を連れていくにあたり、“あり得ない！新人殺しだ！”と言われていた。果たして、初めての冬山テント泊を経験した2名にとっての感想は如何なるものか？それが現実のものとなってしまったのか…確かに私にとっても、かなりハードな山行であったことは、事実でありました。

T島 記

12月4日（土） 忘年会

参加者：

T谷、S川、T井、M井、K林和、S藤、S矢、K山、T野、N島、T塚、K子、H、K原、T島

毎年場所を提供してくれているT谷さん、ありがとうございます。
おかげさまで、楽しく飲んだり食べたり… 一年の締めくくりをさせていただきました。
一度も参加されていない方 ぜひ次回どうぞ！ お待ちしています。



編集後記

某ショッピングセンターにてXマス包装のバイトをしました。子供売り場って縁がないのでイマドキのキャラや服のサイズを訊かれても戸惑うばかり。でも、今のベビー服やオモチャはとっても可愛いくって、見るだけで和みました。まー実際は、この形ならどう包むかばかり気にしてましたが。

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

／とっこ

某ゲレンデに行った。オフピステだけど急斜で私は例の如くモソモソ雪とガッツリ戯れた。もう少し気温が下がれば激パウで埋もれてしまうというゲレンデでは贅沢な好条件だけど運動不足で衰えたボディは重めの深雪に撃沈…最初の2本でもう満足でした。

でも、文句タレながらも時間いっぱい滑る？降りる？努力？したのに成長はしなかった(T-T)

／み

昨年の3月に転職してから、もうじき1年。職場の雰囲気と新しい仕事に慣れることが優先で、昨年の春は山を自重していた。しかし、気がついてみると職場の仲間からは、すっかり“山女”のイメージ。更に、豊科から自転車で通うことがそんなに変なのか…“異人？強人？”扱い。そんなイメージを崩しては申し訳ないので、今年も懲りずに山には行くだろうけど、少しは仕事、勉強にも力をいれますので、クビにしないでくださいね。

今年もよろしくお願いいたします。

／ Tしま